

編集後記

『戦史研究年報』第 27 号をお届けします。

本号は「論文」として、戦史研究センターに所属する研究者による令和 4 年度の調査研究成果の中から 3 本を掲載しました。藤井論文は、日中戦争が拡大から膠着へと転換する段階における中国国民政府の戦争指導について論じたものです。石原論文は、1950 年代に行われ、戦後我が国にとって唯一の戦闘艦艇移転事例となった台湾向け魚雷艇移転について分析しています。そして田村論文は、富士地区にある陸上自衛隊の二つの演習場を事例として、軍事組織と地域自治体の関係がどのように構築されてきたのかという問題を、双方向的な視点から歴史的に検討したものです。

巻頭の「口絵」は、掲載論文のテーマに関連付けて、1942 年 8 月の第 2 次ソロモン海戦の際、撃沈された空母「龍驤」の飛行機隊戦闘行動調書と、1907 年に富士裾野演習場で行われた陣地攻防演習についての史料を掲載しました。

「研究会記録」は、スタンフォード大学フーヴァー研究所の林孝庭博士に研究会でご発表いただいた論稿で、冷戦期の米台関係における情報組織の役割に光をあて、その協力と対立が同盟関係に与えた影響について、蔣経国日記等を用いて明らかにしています。

「国際会議参加報告」は、トルコで開催された第 48 回国際軍事史学会大会の概要及び同大会において清水主任研究官が発表した論稿（英文）です。同発表は、第二次世界大戦末期における中立国ヴァチカン市国を舞台として展開された、ヤルタ会談における極東密約に関する情報戦を中心に論じたものです。

「活動報告」には、令和 5 年に戦史研究センターが実施した諸活動、戦後史関連の戦史史料編さん事業の概要、史料閲覧室での閲覧状況等を記載しました。

最後になりましたが、本号発刊のためにご協力いただきました関係各位に厚く御礼を申し上げます。

(中島 信吾)